

## 2023年度 認定みょうとくこども園「自己評価」実施報告

みょうとくこども園教育保育従事職員が自らの保育実践を振り返り自己評価を行うことによる「保育の質の向上」を図るため、『魅力ある保育士・保育教諭になるための「自己評価」～魅力ある教育・保育施設づくりのために～』（広島県保育連盟連合会 R3, 2, 2 発行）を用いて2023年10月中に職員21名が下記分野の評価分類、評価項目についてチェックを行った。

【第1部】自らの資質・能力	17分類	139項目
【第2部】教育・保育の基本的事項	3分類	36項目
【第3部】乳児から満3歳未満児の保育	5分類	91項目
【第4部】3歳以上児の教育・保育	7分類	105項目

職員が無記名で自己評価を提出し職員全体で集計、レーダーチャートを作成した上で分析し、教育・保育施設としての評価と課題を見出すとともに、職員会議で評価結果を話し合い、各々の現在の資質・能力を見つめ努力すべきことを客観的に見出して、今後の教育・保育の質の向上に資することになるよう役立てたい。

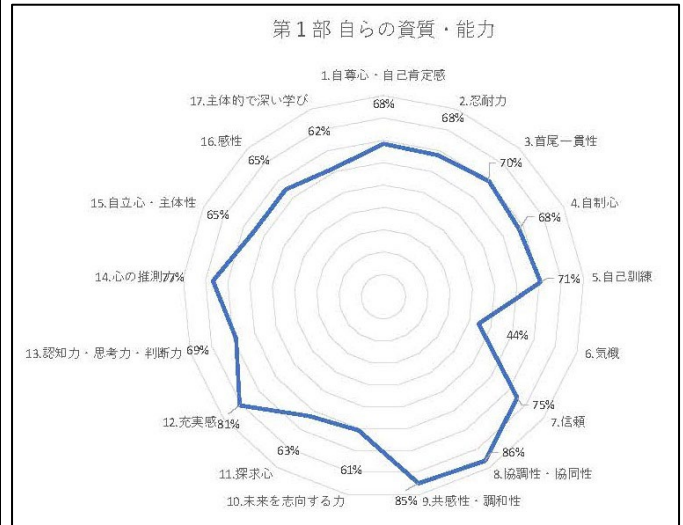
---

【第1部】自らの資質・能力 17分類 139項目

1 自尊心自己肯定感 (1) 教育・保育の実践に自信を持っている (2) 教育保育の実践について、誰に対しても意見を述べたり、聞かれたことに応えたり、説明する時おどおどしたり、躊躇したりせずに応答できている など8項目	いにかけている など8項目
2 忍耐力 (1) 意図した計画が思い通りに展開しなかった時、援助のあり方や子どもの興味関心の捉えなどを反省し、もう一度、新たな視点から実践している (2) 一つの物事に粘り強く取り組み、やり抜く力を持っている など7項目	8 協調性協同性 (1) 施設の中で、他の職員とうまく協力し、周りの職員に合わせる事ができている (2) 誰とでも気持ちよく挨拶したり、笑顔で接したり、仲良くできている など11項目
3 首尾一貫性 (1) 自分がやると決めたこと、引き受けた仕事は中途半端にせず最後までやり切っている (2) 自分の考えや意見に間違いや思い違いがない限り、相手やその場の雰囲気や考え方を安易に変えたりしていない など5項目	9 共感性調和性 (1) 心を通わせ、周りの職員と、気軽に言葉を交わすことができる雰囲気づくりをしている (2) 他者と表情豊かに関わりが持て、感情の交流をすることができる など9項目
4 自制心 (1) 満足のいかないことや困難なことが生じた時、自分の心や感情を統御し、いつまでもフラストレーションを抱えず、回復し、平常心を取り戻せる (2) 相手の非があると分かってもカッとせず、感情を抑えてコントロールし、自分の感情を言葉で表現できる など7項目	10 未来を志向する力 (1) 現在の欲望情動（今やりたい、今手に入りたい、今して欲しいなど）をコントロールしていくことができている (2) 明日に向けて、細かく計画を立て、必要な実践や達成度を記録していくことができる など11項目
5 自己訓練 (1) やってみてうまくいかず、考えが整理できなかった時は、やり方を色々工夫したり、変えたり別の方法や手段を試してみる (2) 任務を遂行するうえで、常にもっと良くなるという姿勢を持っている など8項目	11 探究心 (1) 「面白そう」「やってみたい」「もっとこうしたい」「試してみたい」という意欲的な経験を積み重ねている (2) 人、物事、自然現象、様々な事象など身近な環境から、影響や刺激を受け止めて、主体的に関わっている など12項目
6 気概 (1) 任務の遂行に自信がなかったり、他者から叱責を受けないかなど不安はあったりするが、「とにかくやってみる」という強い気持ちを持っている (2) 他者の評価が気になり、うまくいかないと思ったりする時でも、自分には「やればできる」という気持ちが湧き、「がんばってみる」という意欲を持っている	12 充実感 (1) 今の仕事が楽しく、生き生きとしている自分を実感している (2) 身近な人や子どもたちと関わる楽しさ、喜びを感じている など7項目
7 信頼 (1) 周りの職員から「あなたに任せたら大丈夫ね」と言われている (2) 周りの職員に気持ちよく頼ったり、頼られたりする関係がお互い	13 認知力・思考力・判断力 (1) 豊かな感情や好奇心を生み出す自然事象自然現象に、積極的に出会う機会を作り、諸感覚を働かせて、本質や変化、仕組みなどに気づいたり、感じたりして理解を深め、思考力や表現力を高めようとしている (2) 環境に対して、主体的に関わり、感性を働かせて新たな気づきや発見をし、生活や教育保育に取り入れようとしている など7項目
	14 心の推測力 (1) 他者と心を通わせ、気持ちを推測し、共感することができる

- る
- (2) 相手の気持ちや感情に気づいたり、喜び悲しみ、戸惑いなどへの共感ができ、主張や意見を理解したり意思の交流などができている  
など6項目
- 15 自立心主体性
- (1) 教育保育や生活の中で、自分のやりたいことを伸び伸びと、繰り返し挑戦して、自己を十分に発揮して楽しむことができている
- (2) 与えられた業務や教育保育を行ううえで、自らがしなければならないことを自覚して、自分の力で考え、工夫し、諦めずに行っている  
など8項目
- 16 感性
- (1) 物事を考えたり、新しい発想を思いついたり、思索を深めるためには感性の豊かさが必要であると理解している
- (2) 生活の様々な場面で、美しいものや心を動かす出来事に触れて、イメージを豊かにし、それを素直に言葉などで表現できる  
など9項目
- 17 主体的で深い学び
- (1) 自分自身の力を信じ、他者との意見交換において積極的に発言できている

- (2) 本質的なものから派生してくる、色々な知識にも興味関心を示すことができる  
など9項目



**【第1部】自らの資質能力についてのまとめ**

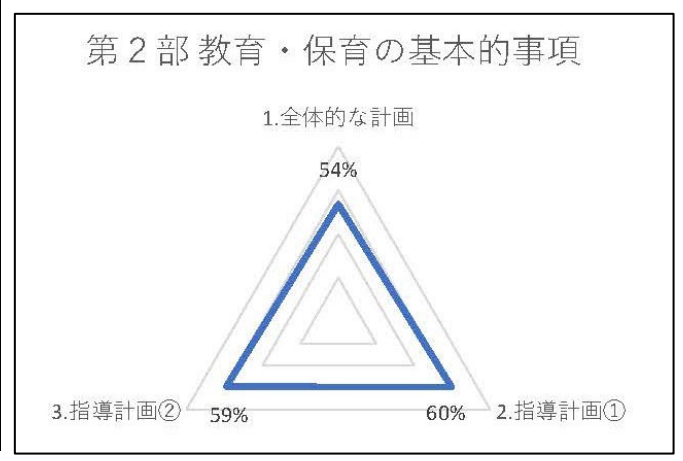
自らの資質や能力について客観的に見つけ課題を見出そうとする姿勢は、続く第2部から第4部までの自己評価テーマに反映されることになる。各職員からの回答からは自己を過大評価することなく卑下しすぎることなく、現在の自己を把握して今後に向けての見通しをつけていこうとする、謙虚な態度から多くの見受けられたと思う。

おおむね 60～70%が該当するとの回答でしたが、「6. 気概」や「10. 未来を志向する力」、「16. 感性」、「17. 主体的で深い学び」の項目などに辛い自己評価が見られた。意欲や気力、自信や強い意志をもって取り組もうとするための目標設定、将来に向けた展望を持つには、自ら思索を深め、多様な経験を重ねて感性を豊かにする必要があると感じているけれどもそこに至っていないという自覚、自己分析が窺える。

**【第2部】教育保育の基本的事項 3分類 36項目**

- 1 全体的な計画教育課程に関連して
- (1) 「全体的な計画教育課程」は、施設の理念目標方針、子どもの発達過程、家庭及び地域の実態を踏まえ、めざす子ども像や卒園までに育てたいことなどについて、職員間で話し合って共有しているか
- (2) 3歳以上児の教育保育、3歳未満児の保育に関わる「ねらい内容」が相互関連し、組織的に構成され、園生活の全体を通して総合的に展開されるよう具体的に作成しているか  
など8項目
- 2 指導計画に関連して①
- (1) 発達の見通しや活動の予測に基づいて、子ども自ら周囲の環境と関わり、活動を展開する充実感を味わいながら、豊かな経験ができるよう「ねらい内容」や環境構成、一人一人に即した援助ができるように作成しているか
- (2) 指導計画作成にあたって、子どもがどのようなことに興味や関心を持ってきたか、その興味や関心に向かってどのように自分の力を発揮してきたか、友だちとの関係はどのように変化してきたか、など一人一人の実情を理解しているか  
など20項目
- 3 指導計画に関連して②
- (1) 集団生活の経験年数、生育歴、家庭環境を考慮して、一人一人の発達の特性や個人差に配慮しながら、発達の課題を理解して指導計画を立てているか

- (2) 3歳未満児は、身体的発達、言語能力、自己表出の仕方が未発達であり、情緒の安定などを含めて、大人への依存度が高いことなどの特性を考え、保護者と連携を図り、食事、睡眠、排泄などについて、生活全体において細やかな配慮と保護を必要とした指導計画を立てているか  
など8項目



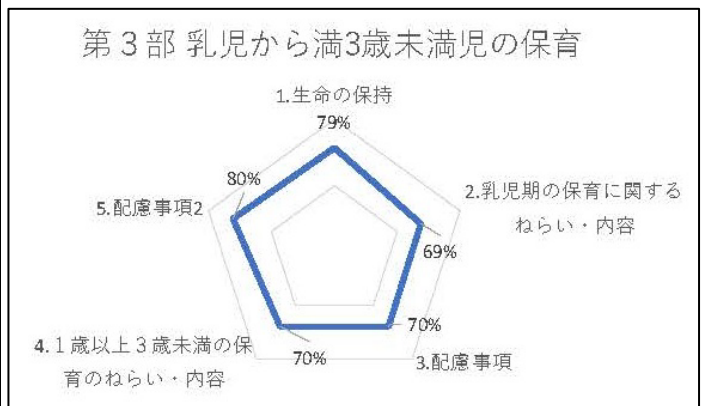
**【第2部】教育保育の基本的事項のまとめ**

すべて50%台という厳しい自己評価であった。指導計画に基づいた教育・保育の内容については、より深い考察と話し合いを重ねることが求められるが、現状では実施することができていないとの反省による回答であると思われる。研修での学びと会議での協議の反映を今後教育・保育の現場に還元できるよう、より実践的で現実的かつ発展的な計画の策定が求められる。

**【第3部】乳児から満3歳未満児の保育 5分類 91項目**

- 1 生命の保持情緒の安定を図る養護に関連して
  - (1) 一人一人の健康状態について、日々必ず行う項目を把握し、身体の状態を細かく観察して、疾病や異常を早く発見するとともに、機嫌や食欲などの把握を十分に行い、健康状態の確忍、継続的把握やその記録をしているか
  - (2) 子どもの疾病について、理解を深めたり、感染予防を心がけ、保護者に適切な情報を伝えたり、保育室や衣類、寝具、遊具など周囲の環境を点検し、衛生的な保持に努めているか
 など12項目
- 2 乳児期の保育に関する「ねらい・内容」
  - (1) 愛情のこもった温かいまなざしや応答的な関わりをする中で、身体の発育に支えられ少しずつ行動範囲を広げていけるように、安心して伸び伸び動ける環境を作っているか
  - (2) 喜びや驚きなど様々な思いを共有しながら、状況に応じて、慰めや励ましを与える共感的な関わりなど、心の通い合う温かな触れ合いが日常的にできているか
 など18項目
- 3 配慮事項
  - (1) 抵抗力が弱く、感染症などの病気にかかりやすい乳児の保育では、一人一人の発達の状態、通常健康状態をよく把握し、常に心身の状態を細かく観察するなど、疾病や異常を早めに発見し、速やかに適切な対応をしているか
  - (2) 一人一人の子どもの機嫌、顔色、皮膚の状態、体温、泣き声、全身の症状など様々な視点から、複数の保育者で観察しているか
 など13項目
- 4 1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する「ねらい・内容」
  - (1) その時々の子どもの欲求や興味関心を理解し、応答的に関わることを基本としながら遊具などを通して、一緒に遊び、発達の過程に必要な保育者や子ども同士との関わり、物を通じた感覚の育ちを意識して環境を構成しているか

- (2) 子ども同士の仲立ちをしながら、一緒にいて心地良いと感じ、楽しいと思えるような遊びを展開しているか
- など38項目
- 5 配慮事項
    - (1) 不機嫌な状態や食欲不振、急な発熱、咳など、わずかな体調の変化に注意を払って、感染症の早期発見に努めているか
    - (2) 生あくびが出たり、過度に水分を欲しがったり、だるそうにしたりするなど普段と比べて様子が変わっている時は、色々な感染症の発症などを疑って、他の保育者や看護師などに相談するようにしているか
 など10項目



**【第3部】乳児から満3歳未満児の保育のまとめ**

「2.乳幼児期の保育に関するねらい・内容」、「4.1歳以上満3歳未満の園児の保育に関するねらい・内容」などが70%前後という厳しい自己評価であった。第2部での指導計画に基づいた教育・保育の内容について、より深く考察と話し合いを重ねなければならないとの反省からの回答であると思われる。丁寧で適切な、さらに成長を見通した発展的なねらいを踏まえた活動ができているか、研修での学びと会議での協議内容を今後教育・保育の現場に反映できるよう、より実践的で発展的な対応と配慮が求められる。

**【第4部】3歳以上児の教育保育 7分類 105項目**

- 1 基本的事項
  - (1) 全身を使い、様々な遊びに挑戦し、生活の流れを見通しながら、身の回りのことを自分から進んで行えるように、環境の構成や援助をしているか
  - (2) 話し言葉の基礎ができるので、日常生活で言葉のやり取りなど不自由なくできるような温かい人間関係が築けるように配慮しているか
 など7項目
- 2 健康

- (1) 温かい触れ合いの中で、解放感を感じつつ、能動的に環境と関わり、自己を表出しながら生きる喜びを味わい、楽しい生活を展開できるように配慮しているか
  - (2) 安定感を持って行動し、生き生きと活動に取り組むことができるように、生活や遊びの場で、一人一人を十分に受け止めているか
- など21項目
- 3 人間関係
    - (1) 園生活の中で自分の居場所を確保し、安心感を持って、やったり

いことに思いきり取り組めるように、子どもを温かく受け入れて信頼関係が築けるように関わっているか

- (2) 一人一人の子どもに思いを寄せ、生活の仕方や生活のリズムを共にすることによって、子どもの気持ちや欲求などの、目に見えない心の内を推測し、内面を理解しようとしているか

など19項目

#### 4 環境

- (1) 施設内外には様々な物があり、これらの環境に好奇心や探究心を持って主体的に関わり、豊かな体験ができるよう、意図的、計画的に環境を構成しているか
- (2) 身近な環境の中にある物を利用するだけでなく、そこで気づいたり、発見したりすることを楽しいと思ひ、他の場面でも活用してみようとする援助をしているか

など17項目

#### 5 言葉

- (1) 保育者や友だちとの間に、安心して気軽に言葉を交わせる雰囲気や信頼関係が結ばれているか
- (2) 子どもが安心して、自分の思いや意思を積極的に言葉で話しかけられるような親しみがある保育者と言えるか

など18項目

#### 6 表現

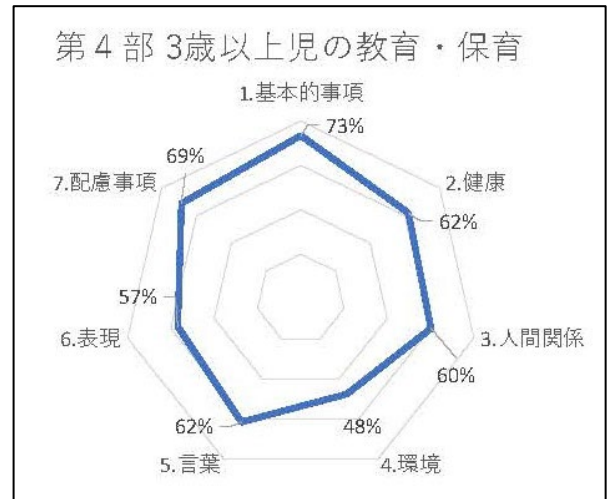
- (1) 感じる、考える、イメージを膨らませるなどの経験を重ねることができるよう環境の構成をし、感性と表現する力を養い、創造性を幾かにする援助をしているか
- (2) 表現する内容が他者には理解しにくい時もあるが、保育者が推察したり、手助けしたりして、他の子どもに伝えられるように援助しているか

など14項目

#### 7 配慮事項

- (1) 幼児期の発達は、心身共に個人差が大きいので、同じ月齢や年齢の子どもの平均的、標準的な姿に合わせて教育及び保育をすることはなく、一人一人の発達の過程を踏まえたうえで教育及び保育をしているか
- (2) 何に興味を持っているか、何を求めてその活動をしているかは、子どもによって異なるので、一人一人の活動の実態を踏まえて、その子の興味や関心に沿った環境を構成しているか

など9項目



### 【第4部】3歳以上児の教育保育のまとめ

「4.環境」、「6.表現」が50%前後という厳しい自己評価であった。第2部での指導計画に基づいた教育・保育の内容について、より深く考察と話し合いを重ねなければならないとの反省からの回答であると思われる。丁寧で適切な、さらに成長を見通した発展的なねらいを踏まえた活動ができているか、研修での学びと会議での協議内容を今後教育・保育の現場に反映できるよう、より実践的で発展的な対応と配慮が求められる。

### 全体を通してのまとめ

自らの資質や能力について客観的に見つけ課題を見出そうとする姿勢が強く、誠実かつ丁寧に過去と現在の自己を把握して今後に向けての見通しをつけていこうとする、謙虚な回答内容が多く見受けられたと思う。

おおむね50~70%が該当する回答となったのは、現状計画に基づく教育保育を実施しているけれども、しかしそのねらいや内容の検討が不十分ではないだろうか、実施方法についても見直すべきではなかろうかなど、振り返りと反省の姿が多く見受けられ、研修での学びと会議での協議内容を今後教育・保育の現場に発揮できるよう、より実践的で発展的な対応をしていきたいという欲求が反映してのことだと考えられる。自ら思索を深め、多様な経験を重ねて感性を豊かにすることなど自己研鑽が必要だという自覚もあわせ、より一層個人的成長と組織的研修を深め、子どもにとって安心して発展的な教育・保育計画と実施展開が図れるような職場環境を整えていかなければならない。